

〈佳作〉

自然と生きよう
ぼくたちの未来

富良野市立東小六年

千葉 達裕

今、「自然」が大変、問題になっています。文化が進むにつれて、人間によって、自然がこわされていっているのです。北海道はどうなのでしょう。北海道だって、

同じはずです。

確かに、自然が、緑が、こわされていくのです。

「木、緑」が、人間によって破かいされています。建築に使うため、道路を通すため、たくさんの木がたおれていくのです。人間にとつて、木とはどのような物なのでしょう。ただ、建築のため、道路を通すために、たおされていく物なのでしょう。

いや、そうではありません。絶対に、そのようなことはありません。木は、何か、人の心をあたたくしてくれそうな気がします。緑のたぐさんある場所で、深呼吸をすると、気持ちさが、スリッとしてきます。また、木は、酸素を発生し、空気をきれいにしてくれているのです。

動物や、昆虫、鳥たちにとつても、木とは、とても大事な物です。木がなくなると、住むところがなくなります。また、食物となる木の実がなくなってしまう。木がなくなると、動物たちもこまるのです。

木は、今、どのような気持ちなのでしょう。ぼくが木であるなら、どのような気持ちになるのでしょうか。ぼくきつと、木の気持ちを考えないで平気で木をたおしていく人間を、うらむでしょう。また、自分もたおされていくという苦しみに、おびえ、さげび、悲しむことでしょう。

木が、緑が、さげび、そしてたおされていくと、これからの北海道の緑は、どのようなすがたになってしまうのでしょうか。このままだと、ほとんどが、土、道路だけの北海道になってしまうでしょう。そうなれば、空気も、今まで以上にきたなくなり、ぜんそくなどの

病気もふえるでしょう。また、気持ちのあたたくなくなる場所もなくなってしまおうでしょう。

ぼくは、そんな北海道はいやです。身近に木や緑があつて、そして動物たちも楽しく住んでいる北海道であつてほしいです。文化なんか進まなくてもいいから、大きな道路なんか通さなくてもいいから、いつまでも、緑が残る北海道でいいです。

最近では、木や緑の問題だけじゃなく、川や海の問題も目立っています。水は、大事な資げんです。水がなければ人間はいきていけません。それなのに、川にごみをすてたり、きたない水を流してよごすのは、許せません。水は動物や魚にとつても、大事なもののなのです。

例えば毎年、札幌の豊平川にサケがのぼってきます。むかしは、多くのサケがのぼってきたのですが、最近では、数が少なくなっています。これは、水のよごれが原因です。このまま、水がどんどんきたなくなっていくと、サケはのぼつてこれなくなります。毎年、多くの人が、たくさんのサケが帰ってくるようにと願つて、サケの赤ちゃんをながすのに、水のきたなさのために、一びきのサケも帰つてこなければどうでしょう。ながした人たちは、深い悲しみにつつまれます。サケたちもかわいそうです。多くのサケが帰ってくるように、これから、水をきれいにしていってほしいです。もとのきれいな水にもどすのはむずかしいので、よごれがひどくならないように、努力していく必要があると、ぼくは思います。

木、緑、川、海、これから大事にしていかなければ、

こまるのは人間だと思えます。動物が楽しくくらす、たくさんのサケが帰つてき、心のあたたくい人間の北海道、それは、自然によってできるのです。ですから、絶対に、絶対に、絶対に、一人一人が自然を考え、大切にしていかなければならないと思えます。

苦しみにおびえ、さげび、悲しむ木。よごれによって、魚が泳いでくれない川。木や川は、言葉をしやべつてくれません。木や川の、本当の悲しみはだれにもわからないのです。

その自然を守つていかなければならないのは、だれでしょうか。動物でしょうか。魚でしょうか。いえ、守つていかなければならないのは、ぼくたち自身です。木や川の気持ちを考え、みんな協力して、ぼくたちの、北海道の大自然が、いつまでも残るように、がんばつてほしいです。